

平成29年度第2回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（海草・有田会場）

- 1 日時：会場 平成29年7月7日（金） 13:30～16:30 きびドーム
- 2 参加者 市町村教育委員会きのくにコミュニティスクール担当者
教育関係者 県立学校関係教職員 共育コーディネーター 等
合計 67名
- 3 内容

◆講演「地域とともにある学校づくり ～学校運営協議会 実践例～」

文部科学省 CSマイスター
大阪府 美加の台中学校区 ゆめ☆まなびネット
学校支援コーディネーター・学校運営協議会 副会長 大谷 裕美子 氏

○学校を核に地域の絆を育む

「地域にもできること」「地域だからできること」
コミュニティ・スクールを自転車に例えると…
前輪＝学校運営協議会（意思決定の場）
後輪＝共育コミュニティ（実働部隊）
ハンドル＝学校長
ペダル＝コーディネーター
イス＝子供たち



○「思い・情報・行動」を共有⇒地域の強みを生かす

学校と地域がつながる仕掛けづくりを！
（顔を合わせる、思いを共有する、考えを伝え合う、励まし合う）場面の設定
例：子供が主役になれる仕掛け「ちびボラさんの大活躍！」レポート
顔と名前が一致する関係づくり「ボランティアさんの写真の掲示」

○モチベーション向上の「3つの魔法の言葉」

- ・さすがですね！
- ・たすかります！
- ・いつもありがとうございます！

○学校と地域と家庭がWIN&WIN&WINの関係に！

◆事例発表

「有田市のコミュニティスクールの取組について」

有田市教育委員会 教育総務課 指導主事 中西 朋子 氏

「有田市立宮原小学校学校運営協議会について」

有田市立宮原小学校 校長 下田 喜久恵 氏



【有田市のコミュニティスクールの取組】

○学校運営協議会設置に向けて

- ・ 学校長への周知
- ・ 有田市学校運営協議会規則の作成
- ・ 既存の組織を一本化

○有田市のコミュニティスクール連絡協議会（構想）

- ・ 各学校運営協議会会長が出席し、取組等を交流

【有田市立宮原小学校学校運営協議会について】

○地域と一体となって育みたい子供の姿を共有

- ・ 地域でどのような子供を育てるのか
- ・ 何を実現していくのか

○第1回学校運営協議会の様子

◆ワールドカフェ「子供たちに不足している力とつきたい力」

○子供たちに不足している力

- ・ 地域を知らない子供が多い。
- ・ 受け身の子供が多いように感じる。
- ・ コミュニケーション不足。

○子供たちにつきたい力

- ・ 気持ちのいい挨拶の体験を増やす。
- ・ 達成感を味わう体験を味わわせる。
- ・ 地域の人との交流の機会を積極的にもつ。



4 参加者の声（アンケートより）

（教職員）

- ・ 保護者・地域・学校が当事者意識を持ち、地域を大切にする心とその発展及び学校の発展を求めることが重要である。このことに近づけることを意識して、取組を進めていかなければならない。
- ・ 地域共育コミュニティのコーディネーターさんとの話をとおして、今、活動している取組の充実を図り、学校運営協議会の委員を決め、無理のない運営を行っていきたいと感じた。また、教職員への説明を行っていく必要があると感じる。

（市町村担当者）

- ・ コミュニティ・スクールについて理解が深まった。とにかくやってみることが大事だということと、自分の地域に合った形にすれば良いということで、ハードルが下がったように思う。